



本園

突発性発疹	2名
流行性角結膜炎	1名
感染性胃腸炎	1名

12月感染症情報



分園

溶連菌感染症	2名
突発性発疹	1名



◎突発性発疹◎

突発性発疹とは、1歳児未満の乳児がかかることが多い、高熱と体に発疹が出来る病気です。生まれて初めて体に入ってきたヘルペスウイルスの一種に感染して起こります。大人はみんな子どもの頃にウイルスに感染しており、だ液にウイルスが含まれています。ご両親などの周囲の方のだ液から感染しやすいとも言われています。

症状は突然の38～39℃の高熱が3～4日続き、熱が下がってきた頃に顔や背中、お腹などに発疹が出現します。咳や鼻汁が出ることは少ないですが、下痢をすることがあります。合併症として熱が出る時に熱性けいれんを起こすことがあります。

(この病気はHHV-6B・HHV-7という2つのヘルペスウイルスがあり、2回感染することがあります)



ヒートテックの着用は控えましょう

冬場のインナーの定番といえばヒートテックが思い浮かぶと思います。また、現在も着用されているお子さんも見受けられます。

なぜヒートテックを控えたほうが良いのかというと、ヒートテックはレーヨンという素材が使用されています。このレーヨンは、水を吸う力は強いのですが、逆にその吸った水をうまく外へ排出することが出来ません。つまり汗をかいた際に渴きにくくなるのです。

子どもは特によく動き回り、汗をたくさんかきます。そのため、ヒートテックを着用していると汗が渴きにくく、びちょびちょした服を着続けることになり、かえって体を冷やしてしまうことになるのです。

また化学繊維であるので、肌の弱いお子さんがヒートテックを着用するとかゆみを伴い、皮膚トラブルを起こす原因にもなります。

子どもに着せる服は、肌に触れる肌着は綿の素材にし、冬でも速乾性の高いものを着せるようにしましょう。

同様に裏起毛のある衣服も汗をかきやすく、かえって体を冷やす原因になります。また、厚手でもあるので動きを妨げる原因にもなります。

朝晩は冷え込みるので、体が冷えないか心配になるかと思いますが、保育園内はエアコンや床暖房などで暖かく、外では動き回り、体温はあがります。また、大人に比べ、子どもの方が体温は高いため、厚着をさせずに、重ね着を心がけ、衣類の調節がしやすいようにして過ごしていけるようにしていきましょう。

重ね着について、右の図を参考に見ましょう。



あつい時は脱いで、寒い時は着るように自分でできるよ

たばこの煙、煙だけが危険じゃない。たばこの害、ちゃんと知っていますか？

見えない煙～三次喫煙(サードHANDSモーク)について

たばこの煙には有害物質が含まれており、小さいお子さんがいるご家庭ではお子さんの前ではたばこを吸わないようにしたり配慮されているかと思います。

三次喫煙(サードHANDSモーク)は、たばこの煙に含まれる有害物質が部屋のカーテンや壁、じゅうたんや家具の表面などに染み込んだ後、揮発し浮遊するものを吸い込む「残留受動喫煙」のことを言います。

カーテンやソファがたばこ臭くなっていたり、たばこを吸う人の髪の毛や服がたばこ臭いと感じることはありませんか？

その臭いは付着したたばこの煙の成分であり有害物質が含まれています。

例えば、衣類にたばこ臭がする場合、たばこによる有害物質が衣類に付着しているため、その衣服をお子さんが着用してしまうと、お子さんはずっと有害物質にさらされることになり、健康への悪影響を及ぼします。

また、受動喫煙と同じくそのお子さんの周囲の人にも悪影響を及ぼします。



このような環境下にいるお子さんはどのような健康の影響を受けやすいのかというと、中耳炎になりやすい、身長伸びが悪くなる、肺炎・気管支炎などの呼吸器疾患、乳幼児突然死症候群(SIDS)等、引き起こしやすくなります。またたばこの誤飲ややけどなどの事故にもつながる危険があります。

【間違いやすい受動喫煙防止対策】

- ⇒換気扇の下で吸う⇒換気扇を回しても料理の香りが室内に漂うように、換気扇でたばこの有害物質は除去できません。
- ⇒空気清浄機を使う⇒たばこの粒子成分は除去できても、ガス成分までは除去できません。
(注) 粒子成分にはニコチン、ガス成分には発がん性物質であるホルムアルデヒドやベンゼンが含まれています。
- ⇒ベランダで吸う⇒近隣の家にとばこの煙が流れ、周囲の人に受動喫煙をさせてしまう可能性があります。また、喫煙後もしばらくの間は、吐く息の中にたばこの有害物質が含まれています。

喫煙をされている方はご自身の健康を守ること、子どもをあらゆる「煙害」から守ることを優先するならば、最も望ましいのは、やはり「禁煙」することなのかもしれません。上記について参考にしていただき、気をつけられるところは改善していきましょう。

気管支拡張剤のテープの使用について



この時期、風邪などの治療のため、気管支拡張剤テープ(ツロブテロールテープ、ホクナリンテープ等)を使用するお子さんが増えています。園のしおり(P26)に気管支拡張剤のテープの使用について記載しています。内容を再確認していただきますよう、よろしくお願い致します。

- ★気管支拡張剤のテープは背中側に貼付けてください。
(自分ではがさないようにするため)
- ★着替え等で外れにくいよう、**透明フィルム・紙テープ**等で保護してください。
- ★登園時、気管支拡張剤テープを貼付していることを保育士へ伝えてください。
「気管支拡張剤テープ 確認票」に記入して提出してください。

1月の保健行事

乳児健診

1月12日(水) ゆめ組・ひよこ組

